

ナスの害虫の発生に注意しましょう !!

定植後気温の上昇とともに、各種害虫(アザミウマ類、コナジラミ類、アブラムシ類、ハダニ類、チャノホリダニ、オオタバコガ、ハモグリバエ類)の発生が増加してきます。アザミウマ類などの微小な害虫を早い発生段階で確認することは難しいですが、多発生となってからは防除が困難になります。そうならないように圃場を丁寧に観察して早期発見に努めるとともに、発生初期からの防除を徹底してください。

被害と早期発見のポイント

- アザミウマ類**：主に葉や花弁を加害するヒラズハナアザミウマ、葉、へた、花弁などを加害するミカンキイロアザミウマ、葉、果実、へた、果梗などを加害するミナミキイロアザミウマなどがあり、加害種によりやや症状が異なります。発見が遅れると、葉にかすり状の傷ができ、激しい場合は茶褐色に変色して落葉し、果実ではガク部を中心に変色や亀裂を生じて、商品価値を著しく低下させます。
- コナジラミ類**：葉や株をゆすると、白い羽の微小な虫が飛びだすので発見しやすいです。直接吸汁することによる生育抑制と、排泄物によるすす病の発生が問題となります。
- アブラムシ類**：ワタアブラムシやモモアカアブラムシなどが、主に葉裏や葉の先端部に寄生します。多発生すると葉の表面に脱皮殻やすす病によるすすが付着し、生育が抑制されます。また、**各種のウイルス病を媒介するので、注意が必要です。**
- ハダニ類**：主に葉裏に寄生します。表は脱色してカスリ状に変色します。初期は下葉に寄生しやすいので、これを早く発見するようにします。
- チャノホリダニ**：生長点付近に寄生すると葉が奇形となる他、葉裏がツヤのある淡黄色に変色して裏側に巻き込み、激しい場合は芯止まりになります。果実は、ガクや果梗部分に変色し、果面がサメ肌状になります。虫は0.2mm前後なので、ルーペでも観察が困難です。**一度芯止まりになると回復に長期間を要する**ので、大きな減収となります。
- オオタバコガ、ハスモンヨトウ**：オオタバコガの若齢幼虫では新芽や花を食害しますが、すぐに果実内へ食入します。齢期が進み、食害量も多くなると、次々と新しい果実に移動し、茎の中にも潜入するので、被害が大きくなります。ハスモンヨトウは、主に葉を食害しますが、老齢幼虫は果実も加害して大きな被害となります。
- ハモグリバエ類**：幼虫が葉肉内を食入する被害(いわゆる「絵かき虫」)で、ナスでは葉が黄化して落葉しやすくなるので、早めの防除に努めます。



アザミウマの被害 コナジラミ * オオタバコガ * ハモグリバエの被害
(* 出典：病害虫防除所)

表1 ナス定植後の生育期における各種害虫の主な防除薬剤

(令和5年6月20日現在)

薬剤名	アザミウマ類	コナジラミ類	アブラムシ類	ハダニ類	チャノホリダニ	オオタバコガ	ハスモンヨトウ	ハモグリバエ類	分類
アフーム乳剤	○	○		○	○	○	○	○	6
アグリメック	○	○		○					6
コロマイト乳剤		○		○	○			○	6
ディアナSC	○	○				○	○	○	5
モベントフロアブル	○	○	○	○	○				23
グレースシア乳剤	○	○		○	○	○	○	○	30
ファインセーフフロアブル	○	○ *タバココナジラミ類							34
コテツフロアブル	○ *ミカンキイロ・ミナミキイロ			○	○	○	○		13
ウララDF	○ *ミカンキイロ	○	○						29
プレオフロアブル	○					○	○	○	un
コルト顆粒水和剤		○	○						9B
スターマイトフロアブル				○	○				25A
カネマイトフロアブル				○	○				20B
マイトコーネフロアブル				○					20D
プレバソンフロアブル5						○	○	○	28
アタブロン乳剤	○ *ミナミキイロ					○	○		15
カスケード乳剤	○ *ミナミキイロ			○		○		○ *マメハモグリバエ	15
モスピラン顆粒水溶剤	○	○	○						4A
ベストガード水溶剤	○ *ミナミキイロ	○	○						4A
スタークル粒剤		○	○						4A

注)1. 表中のミカンキイロやミナミキイロは(アザミウマ)を略して表示しました。

2. 分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。